

## 平成29年度 学校評価

[各校の重点取組について]

- ・業務改善により生徒と関わる時間を確保し、教職員の資質向上を推進し、生徒に自ら学ぶ続ける態度を育成する。
- ・安全で安心な教育環境を確保し、家庭・地域と連携し、知・徳・体のバランスが取れ、社会に貢献できる生徒を育成する。

### 学校教育に関する重点取組

<b>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる</b>		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する		3.0	3.0
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研究授業・協議の実施、授業改善アドバイザー及び指導主事を活用することにより、学校の課題である授業改善を目指す。</li> <li>○ 小中が連携した研修会、相互授業、入学前前課題テスト等を実施するなど、9年間を見通した共通の課題に取り組む。</li> <li>○ 効果的な少人数指導や放課後学習、家庭学習を推進し、自ら学習に取り組む態度を育成する。</li> <li>○ 小中が連携した個別の支援計画を作成し、家庭や関係機関と連携して個に応じた心を実現する。</li> </ul>	(課題) ○ アクティブラーニングなどの授業方法は、準備に時間が掛って継続しにくいところがある。 ○ 家庭学習や読書に掛ける時間が、あまり増えていない。 ○ 習熟度別の少人数指導が有効であるが、進度や評価が難しい。 (改善策) ○ 家庭学習ノートなど、保護者と協力して取り組む。 ○ 小学校の教員は時間的に余裕がないため、中学校からの配慮ある提案をする。 ○ OJT手法による若手教員の指導を積極的に取り入れる。 ○ 先進校視察や研究授業、研修会へ積極的に参加する。		
<b>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</b>		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (3) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する		3.0	3.0
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 道徳の教科化に向けて年間計画を作成し、学校全体として組織的に「道徳」を推進していく。</li> <li>○ 規則正しい生活習慣を確立し、生徒一人ひとりの内面理解に努め、自己判断能力を養っていく。</li> <li>○ 自他の命を大切にし、お互いを尊重し、いじめを絶対許さない態度を育成していく。</li> <li>○ 小中が連携して9年間を見通した指導計画を作成し、他者と協力・協働しながら将来を生き抜く力を育成していく。</li> </ul>	(課題) ○ 教育活動全体とリンクさせ、実践的な道徳性を身に付ける。 ○ 携帯・スマホによるネットトラブルについては、見えない部分も多く、対応が困難である。 (改善策) ○ 教育活動全体とリンクさせ、実践的な道徳性を身に付ける。 ○ 生徒に関わる時間や教育相談の機会を増やし、いじめの未然防止に努めると共に、将来について支援する。 ○ 情報モラルに関しては、授業や講演会で継続的に指導する。 ○ キャリア教育を充実し、個に応じたきめ細かな進路指導を実施していく。		

<b>3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む</b> <b>(1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する</b> <b>(2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る</b>	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	<b>3.5</b>	<b>3.0</b>

取組とその成果	課題と改善策
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家庭との連携して、「早寝・早起き・朝ごはん」運動を推進し、好ましい生活習慣の確立を図っていく。</li> <li>○ 家庭科や昼食の時間など教育活動全体を通じて食育教育を行っている。</li> <li>○ 心身の健康と安全に留意し、健康的な生活を実践する態度を養うため、保健だより、講演会などを通じて啓発活動を行っている。</li> <li>○ 体育や部活動、スポーツ活動を通し、計画的かつ継続的に体力、運動能力を育成していく。</li> </ul>	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家庭環境が厳しい生徒の食生活を支援していく必要がある。</li> <li>○ 体育の時間、部活動の時間が短縮され、十分指導できない。</li> </ul> <p>(改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域や関係機関と連携し、外部からの指導者を積極的に活用していく。</li> <li>○ 社会体育やスポーツクラブなどへの参加を推奨する。</li> <li>○ ダンスなど生徒の運動能力や適性、興味関心等に応じた指導内容を積極的に取り入れていくにする。</li> <li>○ 1年生から柔軟運動や筋力トレーニングを取り入れ、計画的かつ安全性を考慮した組み体操に取り組む。</li> </ul>

<b>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</b> <b>(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る</b> <b>(2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る</b>	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	<b>3.0</b>	<b>3.0</b>

取組とその成果	課題と改善策
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の登下校の安全を確保するため、PTAや地域の方々と共に通学路で指導していく。</li> <li>○ 自分の命は自分で守るため、防災に対する正しい知識と技術を身に付け、その場に応じた確かな判断できるよう防災訓練を行っている。</li> <li>○ 地域や関係機関と連携した防災訓練を行い、避難所としての学校の役割を確認していく。</li> </ul>	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業や訓練は行っているが、危機意識や瞬時の判断力を身に付けるのが難しい。</li> <li>○ 自転車の交通安全教室を実施し、安全運転が定着しつつあるが、大人のマナーが悪いケースも多い。</li> </ul> <p>(改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ JR福知山線脱線事故を題材にし、本校の過去の経験を生かした実践的な防災教育を継承し、高揚を図っている。</li> <li>○ 校舎は老朽化しているが、安全な生活環境を確保するため、日頃から施設・設備の点検を適切に行う。</li> <li>○ 保護者、地域と連携した安全教室や防災訓練を計画・実施する。</li> </ul>

<b>5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</b> <b>(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力及び教育水準の向上を図る</b> <b>(2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、地域とともにある学校づくりを推進する</b>	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	<b>3.5</b>	<b>3.5</b>

取組とその成果	課題と改善策
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研究授業や研修により授業改善に努め、指導力の向上を図る。</li> <li>○ 学校評議員制度や学校評価制度を活かし、学校の組織力や教育水準の向上を図る。</li> <li>○ 学校業務改善を推進し、生徒に関わる時間の確保と教職員の健康保持に努め、活気ある学校作りに取り組んでいく。</li> <li>○ 学校の情報を保護者や地域に提供し、課題を共有し、地域とともに学校作りを進めていく。</li> <li>○ 地域の活動やボランティアに積極的に参加していく。</li> </ul>	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校行事は多く参加してもらえるが、オープンスクールは少ない。</li> <li>○ 学校評価アンケートの反省と課題を全職員で共有し、次年度に十分いかせていない。</li> </ul> <p>(改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業見学と教職員と面談を積極的に行い、スキルアップを図る。</li> <li>○ 管理職も率先し、研究推進委員会を積極的に活用し、指導力の向上を図っていく。</li> <li>○ 学校行事の内容や期間を改善し、HPなどで保護者や地域へ積極的に広報していく。</li> </ul>

<b>教育目標</b>	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	<b>3.0</b>	<b>3.0</b>

(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開  
(2) 教育目標の具現化と指導の充実

<b>取組とその成果</b>	<b>課題と改善策</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体験活動や行事を精選し、成就感や達成感を味わわせ、課題である心と社会力を育成していく。</li> <li>○ 道徳、特活、総合的な学習時間を年間計画どおり実施する。</li> <li>○ 学年行事や生徒会活動を通じて、班活動、学級、学年活動などでリーダーの育成、学級・学年の活性化を図る。</li> <li>○ 情報モラルの計画的指導と生徒向け講演会の実施と情報媒体の管理の徹底を図る。</li> <li>○ 1年生から『生き方』指導として計画的に指導する。</li> <li>○ 組織の活性化と適材適所を図り、個に参画意識をもたせる。</li> </ul>	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 知・徳・体のバランスがとれた成長を実現するため、生徒の実態を把握し、計画的に重点目標を設定しなければならない。</li> <li>○ 指導要領の改訂に伴い、年間指導計画の見直しを図る。</li> </ul> <p>(改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 総合的な学習や特別活動を充実させ、課題探求的な学習を取り入れていく。</li> <li>○ 学校評価内容を分析し、全教職員で課題を明確にするとともに、目標を具現化する。</li> <li>○ OJT手法により、組織の活性化を図る。</li> <li>○ キャリア教育を小中連携して推進する。</li> </ul>

<b>研究テーマ</b>	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	<b>3.0</b>	<b>3.0</b>

(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開  
(2) 研究テーマの具現化と指導の充実

<b>取組とその成果</b>	<b>課題と改善策</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研究授業、研究協議の実施、授業改善アドバイザー及び指導主事の活用する。</li> <li>○ シラバスを作成、活用し、生徒の能動的な授業参加、教員の授業改善を推進する。</li> <li>○ 小中合同研修会、相互授業参観、入学前前課題テスト等の実施。</li> <li>○ 個別指導計画の作成(特別支援教育)。</li> <li>○ 学力生活実態調査から、授業改善をベースにした学力向上を図る。</li> <li>○ 効果的な少人数指導や放課後学習を推進する。</li> </ul>	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読書、家庭学習の時間に、顕著な伸びが見られていない。</li> <li>○ 学力低位層の子どもたちを引き上げるような魅力ある授業参観を実施をしていく必要がある。</li> </ul> <p>(改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 課題探求活動など、学力向上に向けて授業を改善する。</li> <li>○ 家庭連絡ノートなどの作成による、保護者と協力・連携した家庭学習の取り組みを行う。</li> <li>○ 小中連携の会議や研修は隣の中学校区も含め、学力向上の取り組みなど、9年間を見通した課題を共有する。</li> </ul>

	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)

<b>取組とその成果</b>	<b>課題と改善策</b>